

平成27年度第2回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

1 日時

平成27年10月27日（火）13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、秋冬野菜の需要・消費動向の見通しについて、意見交換。その概要を小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、11月5日開催の平成27年度第2回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成27年産秋冬野菜の需要・消費動向の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

1 野菜全体の目下の動向

① 最近の景気、天候等の要因による消費動向

- 春先の降雨や、7月や8月下旬の高温や長雨などの天候不順により、価格が一時的に高騰したが、最近になって、天候も回復し価格も安定して消費者にとって買いやすい状況になってきている。
- 産地の天候不順により価格が高騰したこともあり、カット野菜等の販売量が直近と比べて3割も伸びた。
- 野菜価格が高騰している時でも、カット野菜の価格は、据え置かれたままである。業者としては、厳しい状況にあり改善が必要である。
- 生協では、消費者会員の理解を得ながらカット野菜についても、原料価格が上昇した分や、カットに要するコストを勘案して、売価設定を行っているところも見られる。

② 個食化・簡便化傾向等の影響によるカット野菜、冷凍野菜及び原料に野菜を使用した冷凍調理食品の消費動向

- 野菜の相場高もあり、カットサラダは前年に比べて30%も売り上げが伸びた。また、カット野菜をセットにしたメニュー提案型による販売方法が消費者に好まれて、前年比3～4割伸びている。
- 価格が高値で推移したことから、はくさいやキャベツはカットしたものの販売量がかなり伸びた。特に、はくさいは高値が続いたことから1/8カットの販売が好調であった。
- キャベツの高値を受けて、これまで、キャベツは1/2カット売りが主流であったが、カット販売への割高感からか、キャベツ1個をそのままを購入する消費者も一部では増えた。また、1個購入の促進のために芯まで使い切るメニュー提案や残りの野菜を活用したレシピ集を作成し、好評だった。
- キャベツや白菜等の重量野菜をホールで売るには、店舗の立地や宅配サービス等の販売方法も影響する。

③ 輸入野菜（生鮮野菜及び冷凍野菜）の動向

- 輸入の主流であるたまねぎは、中国産のむき玉と比較すると、国産のむき玉の価格はkgあたり50～60円程度高い価格となっている。
- 中国（山東省）では、人件費の高騰や農家の減少等から、これまで以上の取引価格以上でない買い付けが難しくなっている。
- 中国以外では、台湾からレタスやニンジンが輸入されているが、これ以外の品目は、台湾国内向けがほとんどではないか。

- 国産のブロッコリーが高値で推移したため、オーストラリアから輸入した。また、アスパラガスは、国産の出荷が鈍る端境期などでは順調に販売できる商材の一つである。

④ 消費拡大への取組状況及び今後の予定

- 若い世代の野菜離れが顕著であることを受けて、毎年、開催している市場祭りにおいて、価格や美味しさという観点だけではなく、食育について考えて頂く取組みを実施した。
- 小さな子供がいる30代から40代の夫妻を対象に、野菜の効能や調理方法などの講演を行い、子供に野菜をもっと食べてもらうための取組みを実施している。
- 足立区では、生活習慣病を予防するために、「野菜から食べる」「野菜を3食しっかり食べる」、「野菜をよく噛んで食べる」を内容とする「ベジタベライフ」という取組みを推進している。
- 農家からの食べ方の提案や珍しい野菜の食べ方、野菜の保存方法などを内容とした講座を開催し、参加者から好評を得た。
- 若い人に野菜を食べてもらうため、ブログなどSNSでの情報発信も重要だが、テレビなどメディアの効果が大きいことから、有名人を使うなど、戦略的に行うことが必要である。
- パート社員の接客強化やコトPOPでの提案など商品購入の動機付けを行っている。更に、旬の商品知識の研修や、売り場でのメニュー提案など実施している。

2 秋冬野菜主要6品目（冬キャベツ、秋冬だいこん、たまねぎ、冬にんじん、秋冬はくさい、冬レタス）の今後（11～3月）の見通し

《冬キャベツ》

- 茨城県産は、定植後に長雨が続き、さらに先般の大雨により24時間以上冠水したほ場もある。そのようなほ場では根のはりが弱くなって小玉傾向で、結球も弱くなる可能性があるため、11月中の出荷は少なくなる可能性がある。
- 愛知県産、静岡県産も台風の影響で定植後の苗が飛ばされたところもあり、11月中の出荷は少なくなる可能性がある。九州の産地は、豊作傾向にあるため、12月以降は安定した出荷が見込まれる。

《秋冬だいこん》

- 千葉県産、神奈川県産については、11月前半までは9月の台風、長雨の影響から荷が少なくなる可能性がある。それ以降は入荷も安定する見込み。
- おでん、煮物のメニュー提案等を行い、販売を強化していく。

《たまねぎ》

- 北海道産が豊作傾向であり、前年の半値程度で推移することが予想される。
- 価格も前年に比べて安くなることから、大量パックやばれいしょ、にんじんなどと組み合わせたパック売りを実施して消費拡大を図る。

《冬にんじん》

- 千葉県産、茨城県産はだいこん同様に11月前半までは少なくなる可能性がある。
- 11月中旬以降数量が増加して12月から1月までピークを迎える。価格も落ち着くことから、たまねぎと合わせたメニュー提案によるパック売りを実施する予定である。

《秋冬はくさい》

- 茨城県産は、9月の台風や長雨の後に一斉に定植をしたことから、11月前半までは少なくなる可能性があるものの、その後は順調に出荷される見込み。
- 販売は4分の1カットが中心となるが、12月以降は霜降りはくさいなど特徴的なものを販売していく予定である。

《冬レタス》

- 茨城県産は、9月の台風や長雨の影響でほ場が冠水したことから品質にやや心配がある。茨城県の後、静岡、兵庫、九州へと産地が移行するが、西の産地は生育も順調であることから、価格は落ち着くと考えている。

- 暖冬となった場合には、積極的に広告に掲載するなど、販売を強化していくことを考えている。

3 その他

① 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- はくさいの一種である、山東菜に注目している。
- トマトやブロッコリーなど、簡単に食べられるサラダ商材は今後も伸びてくる。現在、高糖度トマトのジェラートやジェルなど加工品に注目している。また、おでんの食材としてトマトの利用も検討している。
- 環境配慮型のエコ長ねぎなどの販売額が年々増加している。それ以外にも、ズッキーニやブロッコリー、量は少ないがパクチーなどに注目している。
- 居酒屋や外食、中食では、需要量は少ないがハーブ系のミントやイタリアンパセリ、ルッコラの使用量が増えてきている。
- これまで、ねぎは地域によって青ネギと白ネギに区分されていたが、大手外食チェーンの取組みもあり、関東で青ネギや、関西で白ネギがよく食べられるようになり食の交流が進んでいる。

② 野菜の物流を巡る情勢変化の影響とその対応

- モーダルシフトは、まずは現場の理解を得ないと進みづらいし、フェリーの活用やコンテナの整備も必要であるが、確実に歩みが前に進んでいるのではないか。
- 農林水産省の補助事業などにより、札幌や熊本においてモーダルシフトの必要性について理解して頂くためセミナーや実証実験を実施している。成果を公開して皆様に理解を得ることが必要である。
- 産地側が負担する流通コストの低減を図るため、これまでの店舗までの配送を流通センターまでの配送とした。これによって農家手取りを少しでも多くできると考えている。

③ 最近の原油価格や労務費の動向等による野菜価格の影響

- 原油価格は、昨年に比べ下がっているが、直近の野菜価格に大きな変化を与えるものではない。
- 労働力不足の問題については、大企業は外国人労働者の雇用や機械化や設備の高度化で効率化を図っているが、中小企業には影響が生じていると考える。
- 地方の労働力を活用して産地で1次加工を行えば、農家の手取りも上がるのではないか。

④ 震災や原発事故の影響による消費動向

- イベントなどにおいて、福島県産などの農産物は安全であることを呼び掛け、風評被害がないよう取り組みを行っている。
- 学校や保育園に対しては、放射線量検査の実施状況等を説明しながら納品していることもあり、福島産を敬遠する声も少なくなってきた。
- 全体として消費者などからの問い合わせは少なくなっている。

⑤ その他

- 輸入食品の検査や保管の状況などについて勉強会を横浜で開催した。参加者からは、全量検査でないこと等に対して驚きの声が上がっており、輸入品に関する検査状況を含む情報開示が必要との意見が出た。